

水たまた

通巻 第17号



高良山くんち奉納「百々手式」

教育勅語渙発百二十年

宮司 竹間 宗磨

酷暑の夏を過ごし、十月「高良山くんち」を迎えると、いよいよ総りの秋です。我が日本の国では、四季折々の美しさをその季節ごとに、家族や友人達とともに楽しみ愛でることが出来ます。人は自然の恵みの中で生かされて生きて行き、自らを包む自然のありがたさを感じ、その優しさに応える心がありました。

近年頓に、世界中で、自然が人間と対峙するような状況に出会います。意図的に或いは無意識のうちに人間が自然を越えようとしている結果です。自然の中で生きるべき人間は、他者に対しても攻撃的になっていきます。人間は自ら、人が住みにくい世の中を創出してしまったのです。戸惑い立ち止まり省みると、人の心の根底の規範意識・道徳を疎んじてきたことに気付くのです。人間が見失った大切なこと、振り返ってみましょう。孝行・友愛・夫婦の和・朋友の信・謙遜・博愛・修学習業・知能啓発・徳器成就人格向上・公益世務・遵法・義勇。明治二十三年（一八九〇）十月三十日の「教育ニ関スル勅語（教育勅語）」に、いま必要とされるこの十二の徳目が示されています。教育勅語渙発より本年は百二十年。真に、あらためて人として、組織や地域を超えて修めるべき御聖慮であります。

高良山くんちひらひ



高良大社の年間祭事の中でも重要で大きな祭儀は「例祭」、秋の大祭である通称「高良山くんち」です。

「くんち」の名称は九日(くにち)に由来し、当社では古くは旧暦九月九日であったものが、新暦に改まった折に月遅れの十月九日になったと伝えられております。

又、九月九日を「初くんち」、十九日を「中ぐんち」、二十九日を「末くんち・終いぐんち」と称して秋祭を行うことは九州以外の他県でも見られます。

更には「くんち」は「供日(くにち)」お供えをして祭る日からとも言われており、九日に捕らわれず他の日でも秋祭を「おくんち」と称

して、北部九州では多くの神社で盛大に執り行われるのです。

地元の方々からは、かつての高良山くんちは、参道は行き来する大勢の人であふれ、出店で土産を買ってもらうのが楽しみであり又、おくんちを祝い、遠方からの親類縁者や来客をもてなす為に各家で甘酒を醸し、かます寿司、栗おこわ、がめ煮などを作った思い出を聞きます。

さらに佐賀県よりお参りになる方も多く「佐賀ん高良山」(佐賀の高良山)と言われ、その伝統は今に受け継がれております。

現在高良山くんちは十月九日より十一日までの三日間行われます。

宮司以下神職は身を清め、九日未明に新たな高良大神様の御神霊をお迎えする「神生祭」を、他見の許されない秘祭を以てお仕えし、おくんちが始まります。

九日には例祭、十日には崇敬会大祭が斎行され、この二日間は神賑行事として獅子舞や風流を始め多くの奉納があり参拝者で賑わいます。

最終日の十一日には観月祭が行われ、爽やかな秋の夕辺を楽しむ人々で山内には優雅な時が流れて、三日間に亘る祭礼は終了いたします。

くんち日程

◆十月九日(土)

神生祭 午前零時
例祭 午前十時三十分
謡曲奉納 久留米喜多流奉賛会
舞奉納 高良山十景舞保存会



高良山十景舞

高良山の名所十ヶ所「高良山十景」の詩歌に地元婦人会により編曲、振り付された舞です。

◆十月十日(日)

崇敬会大祭 午前十時三十分
献茶式 表千家不白流九州支部



野点 拝服席

表千家不白流奉仕により参拝者に薄茶の接待があります。

大的式 境内特設弓道場

小笠原流弓馬術同門会による歩射の神事です。

射手は男子が直垂に烏帽子、女子は水干の古式ゆかしい姿で奉納します。

◆十月十一日(月)

観月祭 午後五時三十分

「月神高良の神」といわれることにならない、月を愛でる祭として平成三年より行われています。境内は雅な雰囲気にも包まれます。お茶席・おでん・カッポ酒の接待、鬼のてこぼし授与等もあります。

奉納行事

本殿

午後六時三十分～七時二十分

琵琶 筑前琵琶保存会
仕舞 久留米喜多流奉賛会
吟詠 錦城流
箏曲 中村雅楽美法師



琵琶 筑前琵琶保存会



久留米にわか

境内特設舞台
午後七時三十分～九時
箏曲 生田流正派
久留米にわか 久留米にわか保存会
雅楽 御井町雅楽同好会
柳川日吉太鼓 柳川日吉神社
久遠太鼓 立正佼成会久留米教会



箏曲 生田流正派 中村雅楽美師



趣ある盆栽の数々は参拝者の心を和ませます。

十月十日(金)～十二日(日)
第十一回さつき盆栽秋季展
さつき盆栽趣味の会
中門内展示場



小学校四年生以下の部を始め、高校生男子女子の各部個人戦に至るまで、多数の剣士たちが高良山の境内特設会場にて熱戦を繰り広げます。

九月二十六日(日)
百々手式 小笠原流弓馬術同門会
奉納弓道大会 久留米弓道連盟
境内特設弓道場

神賑行事

九月二十二日(木)

第十回高良山剣道大会

境内特設剣道場



開祖は新陰流の創始者である上泉伊勢守です。宮崎県高千穂の地で古武道と一体となり現代に至りました。

十月十日(日)
古武道棒術演武 心気道神影流
境内特設舞台



よく見られる軽い獅子で舞う動きのある舞ではなく、重い獅子で舞う動きの少ない「神の舞」という舞です。

獅子舞 高良山同志会 境内特設舞台



日頃鍛えた力強い演武により観客は大いに盛り上がります。

十月九日(土)
空手道演武 新極真会久留米道場
境内特設舞台

十月九日(土)～十日(月)
第十一回嵯峨御流生け花展
華道嵯峨御流諸岡社中
中門内展示場
御茶席 表千家北村宗孝社中
境内及び斎館 拝服席



佐賀県白石町の稲佐神社で奉納される神楽です。白石町は方位除の神様として高良山への信仰が篤く平成18年より高良山くんちにも奉納いただいています。

横手神楽
佐賀県杵島郡白石町有志
境内特設舞台



明治19年の御神幸の先祓いとして始められました。一度は絶えましたが昭和52年に復活しました。

十月十一日(月)
御井町風流 御井町風流保存会
境内特設舞台

祭事のご案内 (十一月〜十二月)



■明治祭 十一月三日(文化の日)

我が国を近代国家へと導かれた明治天皇の御聖徳を仰ぎ、皇室の弥栄と国の隆昌安泰を祈るお祭です。



■七五三祭 十一月十五日

古く七五三とは、
 ①男の子・女の子ともに三歳で髪置きのお祝い(それまで剃っていた髪をはじめて伸ばし始める)
 ②男の子は五歳で袴着のお祝い(はじめて袴をはく)
 ③女の子は七歳で帯解きのお祝い(はじめて帯をしめる)
 とされています。

■新嘗祭(いなめさい) 十一月二十三日(勤労感謝の日)

高良の神様へお子様・お孫様の元氣な姿をご覧にいれ、子供たちのさらなる健やかな成長とこれからの御加護を願って、ご家族ご親族おそろいでご参拝ください。



その年の新穀を神様にお供えし、御加護によって豊かな収穫を得ることができたことを感謝する大祭です。
 春に五穀豊穡を祈る祈年祭、秋の新嘗祭で豊作を感謝するという日本の稲作文化が息づいているお祭といえます。産業が多様化した現代では会社の商売繁盛・事業安泰の守護を感謝する方々のご参列も多く見られます。

高良大社では献米世話人のご尽力で近郷各地より新米が奉納されます。そのお一人に、「献米使」としてご奉仕していただいております。

■高良山もみじ狩り 十一月二十八日

「御井校区まちづくり振興会」と「高良山の森と環境を守る会」が中心となり行なわれる秋恒例の行事です。
 たくさん催し物も行なわれ、楽しく紅葉見物をする事ができます。

■鎮火祭 十二月一日

人の営みに欠かせない火の恵みに感謝し、あらためて火の災いがないように祈る火伏せの神事が行なわれます。



■大学稻荷神社 冬籠祭(ふゆご) 十二月八日

末社の大学稻荷神社のお祭で、

一年の間奉安されていた「祈願木」を境内にて焼納し、立ち昇る炎に祈願の円満成就を祈ります。
 「ふゆご」は「鞆」に通じ、鉄を扱う職種の方の信仰も寄せられ、稲荷信仰の奥深さを伝えます。



■天長祭

十二月二十三日(天皇誕生日) 天皇陛下の御誕生日を奉祝し、皇室の弥栄と国の隆昌安泰を祈るお祭です。

■年越大祓式・除夜祭

十二月三十一日 夏越大祓式からの半年間、日常の暮らしの中で知らず識らずのうちに過ち犯した罪や穢れを、紙で作った人形に移して心身を祓い清める神事です。清々しい気持ちで新年を迎えようと祈ります。そして一年納めの除夜祭が行なわれます。

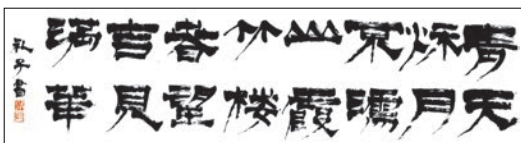
第三十九回 高良山書道展

恒例の高良山書道展・書道上達祈願祭・表彰式が七月十九日に行われました。八百十八名の力作が寄せられ、城崎仁恵委員長以下六名の審査委員により各賞が選考されました。



宮司賞
小学三年生
古庄 恵

ひらがなの曲線をおおらかに書き、漢字の山とバランスが良く、名前もゆるぎない形でまとまっている。



福岡県知事賞
高校三年生
上村 礼子

高校一般の作品には、隸書、行草書などの条幅のものが多かったが、この作品は全体のまとまりが良く、金冬心の特徴をとらえ表現され、今後の研鑽を期待します。



福岡県議会議長賞
中学三年生
是永 早紀

軽い筆使いで伸びがある。文字の黒と白の余白の美しさが素晴らしい。名前も太字とマッチし味のある作品です。



久留米市長賞
小学二年生
伊藤 明子

「ほたる」の結びのバランスが良い。きれいな筆使いで伸び伸びしたすばらしい作品です。



久留米市長賞
小学六年生
馬場 礼悟

堂々として線質がのびのびしている。一点一画をていねいに仕上げ、すっきりした作品に仕上がっています。



久留米市議会議長賞
小学四年生
上津原 藍

画数の少ない文字をバランスよくしつかりした線質で書いています。安定感があり名前も素晴らしい。



久留米市議会議長賞
高校三年生
樋口 小都乃

木簡の書風であったか、伸びやかな線になっています。余白のとり方がすばらしく明るい作品に仕上がっている。



西日本新聞社賞
小学五年生
堤 由衣

やわらかく軽快な筆使いで伸びがある。「大」の左払い、「造」のしんによるとのゆずりあいバランスよくできています。



硯山賞
中学一年生
荻島 詩央里

半紙にまともにくい課題ですが、よくバランスがとれていると思います。

「社」「碑」の調和がよくとれ、きれいな線質、形も良く整っています。



上海堂賞
小学一年生
かねこだいき

太い線で大胆に書いています。上が広く見えるほど余白のとり方が上手。しつかりした元気のよい字で低学年でよく練習したあとが感じられます。



審査委員長賞
中学二年生
渡邊 恵

筆脈が良く通り筆力もあります。行書の基本ができて、名前も大字に調和し、すばらしい。

高良大社賞

- 小一 永江咲好 つるみごだい
- 小二 辻麻奈美 武藤あかり
- 小三 北島 翼 乗富颯汰
- 小四 安部桃加 古賀ことみ
- 小五 池田飛菜 金子実桜
- 小六 北島佑夏 三小田侑花
- 中一 森 智世 杉 玲菜
- 中二 原野七海 井上雄太
- 中三 松本恵佳 末継もえ
- 高校・一般
- 原 崇 川口莉菜
- 木下いずみ 関 瑞恵

兼務社紹介

山川招魂社



鎮座地／久留米市山川町茶白山41

祭神
高山彦九郎・真木保臣・稲次
正訓をはじめ大東亜戦争ま
での護国の英霊

明治二（一八六九）年、旧久留米藩主の有馬頼成公は、高山彦九郎・真木保臣・稲次正訓をはじめ、明治維新前後の国家の危機に斃れた久留米藩士三十余名の慰霊・顕彰のために、招魂所をつくりました。これが山川招魂社のはじまりです。

明治六（一八七三）年、招魂所のある茶白山に御楯神社がつくられ、さらに、佐賀の乱・西南戦争で亡くなった政府軍人や警察官を官修墳墓として祀り、官祭招魂社と称されるようになりました。現在も碑銘には全国各地の出身地をみるこゝが出来ます。

それ以後は、日清戦争をはじめ大東亜戦争にて斃れた久留米市・三井郡・三潴郡・八女郡・浮羽郡などの、旧久留米領内出身の戦没者の英霊を合祀して祀り現在に至っております。

名称については、官祭招魂社以降、山川護国神社、南筑頌徳神社などと称されましたが、昭和三十四（一九五九）年、山川招魂社となりました。現在、山川校区及び御井校区、各地区遺族会の皆様により護持運営されています。

◆祭典日

四月三十日（春季大祭）
十月二十日（秋季大祭）

◆境内碑

- ・爆弾三勇士之碑
- ・龍工兵第五十六聯隊慰霊碑
- ・ラシオ戦友会慰霊碑

高良山の信仰（二）お杖さん

高良大社の特殊な信仰に「お杖さん」があります。

これは「お杖借受け」と称して地区毎に高良大社から「お杖さん」を拝借して、地域の安全・疫病退散・五穀豊穡を祈るものです。

では「お杖さん」とはどのようなものなのでしょう。

「お杖さん」はその名からして杖なのですが、誰もその納められた箱を開けた者はおられません。

今から三百年程むかし山麓に住む信仰深い鹿児島教内なる人物が、どうしたことか流行病を煩いました。

なかなか直らず「これはまだまだ自分が信心の薄いからだ」と考え、教内は固より家族一同にて高良大神様を拜んだところ、ある晩の夢枕に白髪の高良大神様がお立ちになり、「汝、我を念願する事至って深なり、我、汝に來國次の劍をあたえん、此の劍を以て悪魔を清祓すべし」と告げられました。

翌朝目を覚ますと枕元に杖を立てかけてあり、教内は喜んで杖を執り打ち払ったところ、病はほとんどなく全快したそうです。

この話を聞いた往時の高良山座主は「玉垂宮の授けた杖を一般の家に置いておくのは畏れ多い事」として、自らの元へ納めさせたところ凶事が相次いだため、「在りし所に置いてしかるべき」と黒塗りの箱を調べて教内宅へと返されました。

その後、教内の元には病氣平癒祈願の為、霊験あらたかなる杖を借りに来る者が絶えませんでした。

時が移りあらためて高良山へ納められた杖は「お杖さん」として、今でも田植への済んだ頃に筑後の各地区の世話人さん方が、拝借に来山します。

「お杖さん」が各戸を巡回してお祓いをする。集会所に奉安して町民一同にて安泰を祈念する。或いは「お杖さん」の下を潜って息災を祈る。各地区で様々なお迎えの仕方があります。

こうして今年も「お杖さん」は各地区へお出ましになり、無事お戻りになりました。

※注 鍛冶師名

権禰宜 松本 長人

高良山歴史講座

『海に出た筑後川の船と高良山』

—其の式—

久留米市文化財専門委員会会長

田中正日子 先生

『日本書紀』にみえる神話では、天上界の神々は「天の磐椽樟(いわくす)船」や「鳥の磐楠船」で地上界に降臨されたときとされています。しかしクスノキの木は前に述べたように、倭王権が朝鮮半島に渡る船を造れるようにと、スサノヲノミコトが生成された話もありました。そこで実際に出土した古墳時代(四世紀〜七世紀)の船をみると、ほとんどクス材で造られていたことがわかってきます。おそらく玄界灘を渡る航洋船も樟船で、それがスサノヲノミコトの神話になり、神々の天上界でも、磐みたいに強くて鳥のように動きまわる樟船が思考されたのだと思います。

六世紀後半の吉井町の珍敷塚古墳には、高波に耐えるようなゴンドラ型の船首をもつ船が壁画に描かれていました。ところが小郡市では、珍敷塚より二〇〇年以上も古い四世紀前半の津古3号墳の周濠跡から、珍敷塚の船によく似た線刻の土器が見つかっています。船尾には船を操る人影、そしてゴンドラ型の船首近くには帆に似た不思議な絵が描かれていたのです。

『播磨国風土記』は、朝鮮に出兵された神功皇后が、銚磨(しかま)郡の海域で在地神を「御船の前のイタテの神」として祭られていたと書いています。悪霊を払って航海の安全を祈るために、地方の海

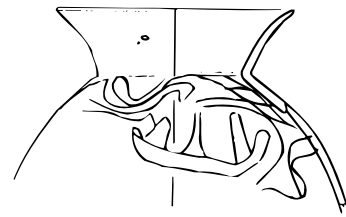
域の神々が斎(イツ)く「楯」を船端にかけて、神名を「斎楯神」(イタテノカミ)と称していたのだと思います。ちなみに四世紀末は、倭軍が渡海して高句麗や新羅と戦っていたことが高句麗開土王碑に刻まれています。神功皇后伝承や小郡市の土器絵で当時の軍船を考えると、イタテの神を祭って渡海していたのではないのでしょうか。

ところが倭王権と同盟関係にあった百済が、四七五年に高句麗軍の侵攻で首都漢城(現ソウル)を追われ、国家存亡の危機にたたされたのです。そこで雄略天皇は百済王家の再興を支援したといえます。しかし、宗像氏がもつ玄界灘の航海神の祭祀権を掌握して失敗したといえます。ところが高羅(高良)山の神を崇め奉ったはずの筑紫水沼君は、宗像氏の「海北道中」の神を祭っていたと「書紀」神話に書いています。しかしそれは、五世紀後半に筑後川沿いから百済への軍事関連の輸送が増えて、玄界灘のイタテの神を勧請する風習が芽生えた後の話でしょう。

雄略天皇は「人質」としていた百済王子に武器を与え、筑紫国の軍士500人を護衛させて帰国させ、王子を東城王に即けたといえます。しかもこの年に筑紫の安致臣(あちのおみ)と「馬飼臣(うまかいのおみ)」が率いた水軍は、騎馬戦に強い高句麗と戦っていたのです。

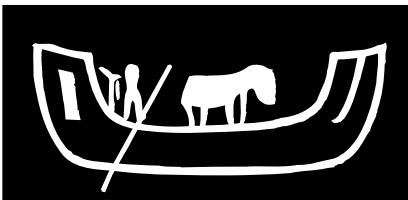
日本の馬は四世紀末頃の応神朝に、百済国王が「良馬二匹」を献上したと「書紀」にあります。ところが五世紀後半には、筑紫の馬飼集団を統括した馬飼臣が高句麗軍と

戦っていたのです。そういえば筑後川右岸の大刀洗町では、この頃百済から持ち込まれた土器と、馬具を装着した馬の土墳墓が見つかっています。ここに渡来系の馬飼集団と統括者の安致臣が居住していたのではないかとはいわれないかともいわれています。



船が描かれた土器
(津古3号墳出土・福岡教育大蔵)

その後六世紀になり、継体天皇が五二二年に筑紫の馬40匹を百済に送り、欽明天皇も五四六年に良馬70匹・船10隻、五五四年には筑紫の水軍に助軍1000人、馬100匹、船40隻などを送った記述もみえます。しかし六世紀中頃から後半になると、馬を丁寧な埋葬した土墳墓はむしろ小郡市から筑紫野市一帯に多くなり、小郡市の三沢古墳群では、67基の古墳と20基ほどの馬の土墳墓が見つかったことが報告されています。



原古墳の馬と船の図文
(斎藤忠「壁画古墳の系譜」より)

そして珍敷塚古墳のすぐ近くには、船に馬を乗せた絵が、六世紀後半代の原古墳の壁画にあります。五・六世紀の古墳時代の中・後期に、筑後川の北岸で飼育

された馬は、水沼君などが生葉山の麓で造った船で百済に輸送したのでしょうか。

ただし出土した当時の大型埴輪から考えると、その船はクスの刳り舟を二つまたは三つ縦はぎにして船底を造り、舷側に板材を組み上げた準構造船だろうと思います。

筑後国の風土記は逸文しか残っていませんが、肥前・肥後両国の「風土記」にはクスの大木にちなむ地名の伝承記事がみられます。遠くまで日陰を落とす樟の巨木が栄えて、そこに佐嘉郡、大きな樟樹があって球珠郡の呼称が生じたなどというのです。しかも豊後国の球珠川は、日田盆地で少国(おぐに)の峯から流れてくる阿蘇川と合流して日田川になり、「終わりは筑前・筑後の国を過ぎて西海(にしのみち)に入る」とした記述もあります。昭和時代に山から日田市に集積されていた材木は、筑後川の筏に組まれて大川市の家具作りを支えていました。日田盆地の川が海外に通じる「西海に入る」という発想は、山間の樟と海の船がつながったことで認識された表現でしょう。

高良大社の境内には県指定の天然記念物で、ご神木とされる樟の大樹があります。その根本にある立札には、ご神木だから建材にしてはならないという中世の「高良記」に書かれた一文が紹介されています。スサノヲノミコトの神話を想起すれば、樟の大樹は丸木の刳り舟として航洋船の船底にはできて、解体して神社の建材にすることは戒められていたのです。

(次号へ続く)

高良大社崇敬会だより

事業実施報告

高良大社崇敬会本年度計画事業のうち次の三事業を実施致しました。

〔斎館裏トイレ改修工事〕

ご高齢の方や車椅子をご利用の方にも安心してご利用戴けるよう斎館(授与所)裏のトイレを改修しました。

〔久留米つつじ原木群手入れ〕

久留米市指定文化財の『久留米つつじ原木群』の手入れを行いました。つつじの上部に絡まる葛や下草を除去するなどの作業です。来春、ご参拝の折には、真紅の色鮮やかな久留米つつじをご覧戴けることと存じます。



久留米つつじ原木群

〔本殿裏山杉の倒木防止工事〕

台風などで倒れ本殿に影響を及ぼす危険を防止するため、裏山斜面上の杉の木にワイヤーを掛け、牽引致しました。



伊勢参宮旅行のお知らせ

伊勢神宮と熱田神宮を参拝する旅行を明春に実施致します。御遷宮を平成二十五年に迎える伊勢神宮にて内宮での御垣内特別参拝と神楽殿にて神楽を奉納致します。

この旅行は崇敬会会員のみならず、どなたでも御参加戴けますので、ご近所お仲間をお誘いの上、是非ともお申込み下さい。

日程

平成二十三年二月

二十五日(金)〜二十六日(土)

二月二十五日(金)

福岡空港 ↓ 中部国際空港

熱田神宮〔正式参拝〕

二見が浦(夫婦岩)
伊勢神宫外宮〔自由参拝〕
鳥羽シーサイドホテル泊

二月二十六日(土)

伊勢神宮内宮〔御垣内特別参拝〕

おかげ横丁散策

神宮徴古館拝観

中部国際空港 ↓ 福岡空港

参加費 お一人様 六四、〇〇〇円

崇敬会入会のご案内

数多くの文化財・史跡を有する高良大社を顕彰し、会員相互の交流を深め、社会の発展に寄与する高良大社崇敬会にご入会になり、高良山について一緒に語り合いまししょう。

年会費

個人会員

正会員 三、〇〇〇円以上

賛助会員 一〇、〇〇〇円以上

法人会員

正会員 一〇、〇〇〇円以上

賛助会員 三〇、〇〇〇円以上

会員接遇

- 毎朝の日供祭にて会員皆様の心安泰ご隆昌を祈願致します
- 高良大社に特別参拝が出来ます
- 崇敬会大祭にご案内致します
- 会主催の行事にご案内致します
- 高良大社宝物館を拝観出来ます

お問い合わせ先

高良大社崇敬会事務局

〇九四二一四三一四八九三

高良山通信

〔奉職〕

松井 瑞穂

巫女見習を命ずる

平成二十二年七月二十六日

〔退職〕

巫女 梅野 しほり

願により職を免ずる

平成二十二年七月三十一日

鎮守の杜

今年も高良山書道展が行われ本殿前と高良会館展望所にはたくさんの作品が展示されました。

毎年見て思うこと、「上手だな」同じ課題でも一人ひとり文字に特徴があり、それを見比べながら鑑賞するのも楽しかったり。作品の奉納の奉告祭とともに、書道上達祈願祭が行われるのですが、「みんなこんな上手なのに、これ以上には達したらどうなるんだろう」と思うほどです。

一番の年少だと小学一年生。「小学一年生でこんなに上手に書けるのかあ」青い空、入道雲と蝉の声。お天道様の熱い眼差しに自分の小学生の頃を思い出しつつ、感心しながら見入ってしまった真夏の昼下がりでした。

(今)

「たまたれ」 通巻十七号

平成二十二年十月一日発行

発行者／高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一番地

電話〇九四二一四三一四八九三

FAX〇九四二一四三一四九三六